

2015年9月11日
農村伝道神学校教師会

安全保障関連法案の廃案を求める声明

わたしたち農村伝道神学校教師会は、日本国政府が、国益を第一義に掲げて特定の国家、とりわけ大国との同盟関係をもとに政策を展開するのではなく、普遍的な倫理基準をもとにして、地理的あるいは経済的に小国、大国を問わず、たゆまない友好関係と和解の途を模索しながら、周辺諸国との関係を構築する政策を求めます。たとえ、過去の歴史ゆえに今は非友好的な関係であろうとも、史実を直視しつつ倫理基準をもとに必要な措置を執り、諸問題を克服すべく外交を進めていくように求めます。

上述の理念に基づいて、現在の安倍内閣が、アジア太平洋戦争において夥しい犠牲を強いた諸国との友好関係を悪化させていることを憂慮し、この度の安全保障関連法案（以下、安保関連法案）について、キリスト者として、この法案の成立に反対し、ただちに廃案にすることを強く求めます。

わたしたちが求める倫理基準は、イエス・キリストの福音が示す普遍的平和主義に立脚し、日本国憲法が保障する生命、自由、及び幸福を追求することです。軍事的抑止力による平和構築は、相手国への優位性を確保する覇権主義と結びつきやすく、植民地主義へと発展します。むしろわたしたちは、たとえ現在では非友好的な関係国に対しても、その軍事的脅威に対しては、非暴力・非武装をまず自国から実現していくと同時に、相手国の脅威に対して武装の解除を促すことによる外交的な平和推進・構築の政策を求めます。

わたしたちはまた、現憲法による立憲主義を支持します。すでに多くの有識者が指摘するように、この安保関連法案が憲法に違反することは明らかです。日本国憲法によっては、集団的自衛権を有することはできません。しかしながら、安倍内閣による2014年7月1日の閣議決定にはじまる安保関連法案への展開においては、憲法13条により保障された「生命、自由、及び幸福追求」の権利をもとに集団的自衛権が合憲であるとの判断を拠り所にしています。これについて憲法学者の多くは、13条からはどのように解釈しても、個別的自衛権しか導出できないと主張しています。

そのような批判を周知しながら、この法案を可決成立させるという行為は、率先して法を遵守しなければならない行政の最高責任者自らが、法治国家としての根幹を揺るがす暴挙に手を染めることを意味します。しかも、現安倍政権は、すでに最高裁により違憲であると判断された選挙によって成立したものであることを忘れてはなりません。さらに、その選挙における投票率も近年では最低であって、正しく民意を反映させた政権とは言えません。ゆえに、違法の上に違法を塗り重ねる暴挙を進めていると言わなければなりません。このように、もはや民主主義国家としての最低限度のモラルを逸脱した行為の拡大に対して、わたしたちはこれ以上の暴挙を容認しません。

以上、わたしたちは普遍的平和主義という理念及び現憲法における立憲主義を尊重することによって、現在国会において審議されている安保関連法案について、重ねて廃案を強く求めます。

農村
伝道
神学校
学報

学校法人鶴川学院
農村伝道神学校
発行人 高柳 富夫

玉山神学院との交流

一昨年より再開した台湾・玉山神学院との交流で、ツァイライさんとピナさんのお二人をお迎えしました。

七月四日より八月二日まで、農伝での歓迎会、授業参加、東北教区被災者支援センター・エマオ、北海教区アイヌ情報センター、名古屋愛美の会、神奈川寿地区センターでの実習活動、番町教会、生田教会、川崎戸手教会、東京台湾教会での礼拝出席や交流をしました。お二人の実習生の報告を今号と次号に掲載します。

多くのご献金をいただき感謝します。会計報告は次号でさせていただきます。(高柳)

日本実習の感想

ツァイライ・ツァイ(パイワン族)

(玉山神学院大学院3年)

翻訳者 東のぞみ

はじめに、今夏このような素晴らしい実習の機会を与えて下さった、神に感謝いたします。将来、伝道者としての歩みを始める私にとって、日本での実習は、かけがえのない経験となりました。多くの場面で感動し、忘れがたい出会いが与えられました。

仙台では、被災地を訪問しました。今は変わり果てたこ



農伝礼拝でのツァイライさん

の地に、かつては家々が軒を連ね、また海や周りの景色を楽しみに、多くの観光客で賑わっていたことを想像すると、いたたまれない思いになりました。また、家族や友人と過ごし、あるいは子ども時代の思い出に溢れた土地を離れざるを得なかった被災者の、今の孤独感や不安な気持ちを察し、心が痛みました。

そうした被災者を思い、少なくない他国や団体からの援助が届けられ、それが今も続いているということに、深い感動を覚えました。被災地の状況を目の当たりにし、神学生という立場にあつて、神の愛が人を動かし、見知らぬ土地の見知らぬ人々の上に、その愛が注がれていることを実感しました。私たちは自分のことだけで精一杯になりがちですが、神は分け隔てのない

方で、私たちが気づかず通り過ぎてしまうような、助けを求めず聞いて下さり、人間の手を通してそれを示して下さいと、感じました。

名古屋では、NPO法人「愛実の会」の活動を見学しました。愛実の会では障がいのある人たちが、人形劇の劇団を結成し、活動する様子が特に印象的でした。劇の内容を自分たちで考え、生み出し、演じるところで、障がい者によるこうした活動を私は初めて知りました。訪れた私たちのために、劇団のテーマソングを歌って、紹介して下さいました。歌詞は日本語でしたが、一人一人が誇りをもって歌う様子から、彼/彼女らの勇敢さや、一生懸命さが伝わってきました。そして、私たちは何かができる/できないにこだわる必要がないんだ、と感じ自然と涙が溢れました。

できることを探すよりも、私に与えられたこの命を尊ぶことが大切なのだと思えました。何事にもひるまず挑戦し、成長を求めたことにより、こんなに満たされた生活を送ることができると感じました。最後は、寿地区で実習をしました。台湾にもたくさん野

宿している人を見かけますが、慣れてしまえばその存在を気にもとめなかった、そんな自分に、寿に来て改めて気づきました。寿には、仕事や家族を失い、帰る場所の無い人たちや、様々な事情を抱えた人が多く暮らしているとのことでした。寿はまるで、貧しい人たちにとって最後の砦のような場所ですが、日本人でもこの地域のことはあまり知られていないようでした。実習では炊き出しと、パトロールと寿わーく(青年たちのフィードバックのプログラム)に参加しました。野宿している人と食事を共にするのは、実は私にとって初めてのことでした。炊き出しの食事は無料で提供されますが、このために暑い中2時間も人々が並んでいました。その状況を見てみると、私の中に「わたしの隣人とは誰だろう」という言葉がわいてきました。台湾でも、こうした帰る場所のないたくさんの人を見かけつつも、気にとめることも無かったのですが、誰があの人々の隣人となり得るのか、と考えていました。台湾でもこれまでに、野宿者への支援は行われませんが、功を奏することなく、今に至っているように見えます。今後、貧しい人々とのように関わることができると

か、私たちにとても重要な課題であると感じました。また、寿では若者による襲撃事件が起きていることを知りました。若者が野宿者を軽んじ、暴力をふるうため、深夜になると緊張感が走るそうです。こうした問題を知り、どうか神が顧みて下さって、ここにいる一人一人が守られるように、また新しい生活へと導かれるようにと、私は心の中で繰り返し祈りました。

日本での実習が、神の導きによって守られたことに感謝しています。初めての海外経験となったこの実習では、本当に多くの新たな出会いと気づきが与えられました。この一ヶ月を通して、私は牧師や信徒の方々の謙虚さに触れ、感動しました。また、どこに行っても私たちがあなたを歓迎し入れて下さった方々に感謝しています。どこにいても、神の福音を求め人がいること、また神の愛によっていかなる状況にも勇敢に立ち向かう人々のことを知りました。これから私は伝道者として立てられますが、日本での出会いは偶然ではなく、全て神による導きであったと確信しています。ここで経験した一切が、将来私が歩む道において、励みとなり、どんな時も前に進んでいけると感じています。

新入生紹介



鳥羽 加陽子

復活之キリスト教団徳高教会より参りました鳥羽と申します。短大卒業後、自然豊かな所での生活を求め東京より信州に移住。その地での出会いました主人を通し信仰に導かれました。

過去の経験より病や死、人間や自身の存在についての疑問を手放せず今に至ったこと。また聖書解釈の方法、方向性の違いがなぜおこるのか。これらのことを聖書を通し、キリスト教を広く学んでみたいとの思いが与えられました。今農伝に導かれ、学びの機会を与えられましたことは本当にありがたいことです。問題解決の糸口が見つからないように見える社会。人間が生きて行く上で自身を問われざるを得ない個人としての問題。足元の揺れをしつかりと感じながら、これらの問題と向き合える厳しくも豊かな場が農伝にはあります。多くの方々の祈りの内に送りだし

て頂いていることを、感謝と共に思い起こしつつ、学びと信仰が深められますよう歩んで参りたいと思っております。



吉野 結

今年四月に入学しました吉野結(ゆい)です。

埼玉県飯能市にある日本基督教団飯能教会に所属しています。洗礼を受けてからそれなりの年数が経ってしまいましたが、けれど、気持ちだけは今も新鮮なつもりでいます。週二回、介護の仕事をしなから、農伝の学びを続けていくところなんです。今は学びも楽しく、恵まれた日々を過ごしています。

我がままではなく、自分の個性を生かして、自分らしく生きることを大切にしたいと思っています。

瞬発力は乏しいので、持久力をさらに磨いて、何とか農伝を卒業して、その先へも希望をつないでいきたいとおもいます。

みなさん、これからもどうかよろしくお願い致します。

第三六回 戦争責任シンポジウム

一年 吉野 結

「私のたどった道」

〜ヘイトスピーチ、植民地主義、天皇制〜
崔 善愛(チェ・ソンエ) さんを迎えて

去る三か月前、六月二日農伝の研修棟に於いて、表記のテーマで崔 善愛さんに講演をして頂きました。

そこに参加した私は、様々なお話しの中から、改めて差別とは何か？私たちはその現実のなかから何を学び、真摯にそのことに立ち向かい生きるとはどのような事か？を問われた思いがしました。

私は今、この原稿を依頼された当初描いていた、文章構成に対して、本文を書き始めてから変更する冒険をしています。

講演から三か月が経ち、農伝の授業も前期を終え、私なりに学びを重ねてきました。新しい出逢いのなかで、また多くの人々との交流のなかで、私自身もほんのちよっぴりではあるけれど成長できたのではないかしら、と感じているところです。その今の思いを持って、戦責シンポジウムを振り返って考えることに

意味があると思ったからです。

「ヘイトスピーチに代表されるような、民族差別の言動によって他者を傷つけ、人間の尊厳をかえりみる事の無い人々の思想と行動があります。それはいったい何を意味するのか？この事への問いに私は今、真摯に向かい合いたいと思っています。

崔 善愛さんが経験してきた「韓国と日本の歴史的關係への思い」「指紋捺捺裁判」「人権論への考察」は私にとつて、考えるに充分な程の事実として胸に迫ってくるものがありました。

最近私は、沖縄で起こっている問題を考えるにあたって「周辺と中心」というキーワードを思い浮かべます。もちろんこれは地理学的關係を問題にしているわけではありませんが、そこに生きる人々、それ自身を「固有の価値」として視ずに、「中心」の思考からずれて行く人々は「周辺」ではないということですか。ヤ

関東教区諸教会問安報告

二〇一一年以来続けている夏の問安は、八月三日〜九日まで関東教区の卒業生(保育

マトからすると沖縄は「中心」ではないのです。だから、沖縄の民意を沖縄の「固有の価値」として認識できない姿勢をこり押しできるのだと思います。「中心」はあくまで、中央の政府・政権ということなのでしょう。これはマジョリティーとマインリティーの關係性と同質のものではないでしょうか。「民主主義の原則」という、決定するのは多数者で、従うのは少数者という形からは、不条理な「民主主義」しか見えません。崔 善愛さんは、そこにいわばご自分の人生をかけて、関わってきた方なのだから、ことを私は改めて強く思うのです。その姿勢に感嘆すると同時に、私は崔 善愛さんが進めてきたキリスト者としての生きざまを引き継ぐものではないかと思えます。神の前における人間の平等性を謳いながら、他者を傷つけ、疎外してしまうキリスト者ではなく、真に神の前で同等な人間理解と実践を私は学び引き継ぐ者になりたいと思えます。

科生を含む)、関係教会をお訪ねしました。旅程は下記の通りです。七日間で一、二〇〇

キヨ余を走り、二二教会を訪ね、三三人の方々にお会いすることができました。

三日・東京―鹿島教会（久保田愛策牧師）―日本バプテス卜同盟潮来教会（久保親哉牧師）―石岡教会（大森清一牧師）―竜ヶ崎教会（飯塚拓也牧師）

四日・水海道教会（加藤久幸牧師）―下館教会（川真田正牧師・相原聡伝道師）

五日・氏家教会（水谷和人牧師）―那須塩原教会（清水信浩牧師）―西那須野教会（潘炯旭牧師）―見附教会（柳田雅江牧師）六日・前橋教会（川上盾牧師）―森野善右衛門氏（前橋）―安中教会（江守秀夫牧師）―高崎南教会（田尻かおり牧師）七日・島村教会（佐藤謙吉牧師）―本庄教会（飯野敏明牧師）―太田八幡教会（指方周一牧師）―羽生伝道所（伊早坂貴弘牧師）―加須教会（舟生康雄牧師）

八日・飯能教会（土橋誠牧師）―所沢みくに教会（最上光宏牧師）―狭山教会・（森淑子牧師）九日・埼玉和光教会（三浦修牧師）日曜礼拝出席

農村伝道神学校、保育科卒業生をお訪ねするのが基本ですが、それ以外にもいろいろな人々に出会ってお話しを伺うことができました。

毎回の問安を通して地方の諸教会の実情を知る中で、ま

すまず神学教育における信徒宣教師の養成が喫緊の課題であるとの思いを深め、次年度からのカリキュラム改定の方

向性や在り方を考えるために、大切な示唆を与えられました。

九月（日）は埼玉和光教会の礼拝に出席して、午後に行われた「戦時食」を食べる会ですいとんをいただきましたながら、農伝での戦責告白を担う取り組みと神学教育の方向性についてお話しする機会を与えていただきました。

お訪ねしたお一人お一人と交流の時を持つことができ、心より感謝いたしております。お一人お一人の上に、いのちと平和の神の顧みがゆたかにありますように、お祈りいたします。ありがとうございます

（校長 高柳富夫）

―― 2016年度入学案内 ――

◆受験資格

(1) 日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後1年以上（洗礼式を行わない教派については、それに準ずる）の教会生活をしている者。

(2) 所属教会が推薦し（可能であれば）、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

◆修業年限

○神学基礎コース：2年間（2年間で修了することも可）。

基礎コース修了後、神学専門コースに進むことができる。

○神学専門教職者養成コース：2年間
○神学専門信徒宣教師養成コース：1年間または2年間

◆学費

入学金 60,000円（入学時のみ）
授業料 240,000円（年額）
設備費 30,000円（入学時のみ）

◆受験手続

次の書類を期日までに郵送または持参する。

(1) 入学願書（本校指定の書式）
(2) 履歴書（本校指定の書式）
(3) 教会（牧師または役員会）の推薦書（可能であれば）
(4) 最終学校卒業証明書（または卒業見込み証明書）
(5) 受験料 10,000円（振り込み）

◆入学願書受付

第1回 2015年10月6日（火）～11月6日（金）
第2回 2016年1月5日（火）～2月5日（金）

◆入学試験日時

第1回 2015年11月25日（水）午前9時～午後3時
第2回 2016年2月24日（水）午前9時～午後3時

◆会場 本校教室

◆入学試験科目 (1) 小論文 (2) 旧約聖書・新約聖書 (3) 面接

○入学願書一式、過去の試験問題集は、本校事務室まで請求ください（無料）。

◆七月二日（木）―三日（金）
二〇一五年度学内修養会
講師：上地武氏（日本基督教団大正めぐみ教会牧師）
テーマ：沖繩の今に向き合う

◆台湾玉山神学院交換交流
日時：七月四日（土）―八月二日（日）
ピナ・パララヴィ（ブヌン族）とツアイライ・ツアイ（パイワン族）の二人の学生が来日。農伝、仙台エマオ、北海道、名古屋、寿地区等で研修を行った。

◆八月三日（月）―九日（日）
理事長、校長は関東教区諸教会を問安した。

◆九月一日（火）―三日（木）
「みんなの伝道協議会」が農伝を会場に行われた。

◆「どこで誰とつながる」
テーマ…「どこで誰とつながる」

◆二〇一五年度農伝デイ・オープンキャンパス
日時：一〇月二四日（土）午

前二〇時―午後二時
◇農村伝道神学校にマサイ族来たる！―マサイのくらし
日時：一〇月三日（火・祝）
午前二〇時―二二時
会費：五〇〇円小学生以下無料
お問い合わせは事務室まで。

のIIとことん「トウキョウ？」

◇紀要三〇号発行されました。
・巻頭メッセージ「あなたはキリストです」（高柳富夫）
・『ルツ記』ラシ註・イブンエズラ註全訳（飯郷友康）
・原初的福音伝承とマルコ福音書（井上大衛）
・「神論」の系譜（織田信行）
・現代神学生の課題（佐藤研）
・代苦か共苦か イザヤ書五三章「苦難の僕の歌」を読み直す（高柳富夫）
・書評（大倉一郎）
ご希望の方は事務室までお申し込みください（一冊千円）。

お知らせ

お知らせ

お知らせ

お知らせ

お知らせ

お知らせ

お知らせ

お知らせ

お知らせ

農村伝道神学校
〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024
Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711
Eメール：noden@pony.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www.noden.server-shared.com
振替番号
農村伝道神学校 00160-6-18485
農村伝道神学校後援会 00120-6-24418